

## 中古品に潜む危険！リユース時の注意 ～安全で持続可能な社会を目指して～

フリマアプリ<sup>\*1</sup>などの登場により、個人間の物品の売買が気軽にできるようになりました。また、おうち時間を活用するなどして、断捨離を始める方も少なくありません。製品のリユース（再使用）を促進することは、限られた資源を有効活用するとともに廃棄物の発生抑制につながり、環境への負荷の少ない持続可能な社会の形成に貢献します。一方で、中古品<sup>\*2</sup>を使用することで思わぬ事故が発生しています。特に、製品の使用状態など入手前の情報が得られず事故に至るおそれに気がつくことができなかつたために、発生している例もあり注意が必要です。NITE（ナイト）は、事故の未然防止のため、中古品の事故について注意喚起します。

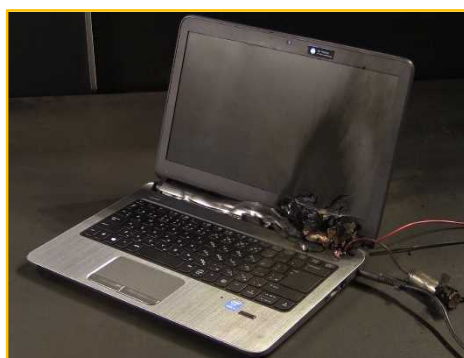
2015年度から2019年度までの5年間にNITEに通知のあった製品事故情報<sup>\*3</sup>のうち、中古品の事故は合計325件<sup>\*4</sup>確認されました。そのうち死亡事故は11件（12人）、重傷事故は14件（14人）発生しています。

品目別では家庭用電気製品での事故が多く、特にパソコンで32件の事故が発生しています。また、入手方法別では、譲渡された製品による事故が最も多く発生しています。

中古品の事故を防ぐためには、提供する側、入手する側のそれぞれで気を付けるべきポイントがあります。中古品を提供する側として、修理・改造した製品やリコール対象製品などは譲渡や売却をしないこと、製品を選ぶのに必要な情報を伝えることなどが重要です。また、中古品を入手する側として、リコール対象製品でないことを確認する、製品の製造年や製品に破損や変形などの不具合が発生していないことを確認するなどして、事故を未然に防ぎましょう。

### ■事事故事例

- ・譲渡された電気ストーブの電源コードが途中で切断され別のコードが接続されていたため、接続部が異常発熱し、出火した。
- ・リユースショップで購入した電気洗濯機がリコール対象製品であり、不具合のあったコンデンサーが内部ショートを起こして出火した。
- ・インターネットで購入した中古品のノートパソコンを充電中、非純正品のバッテリーパックが内部ショートし、出火した。
- ・譲渡された扇風機の内部配線が長期使用による劣化で断線し、スパークが生じて出火した。



### ■事故を防ぐポイント

- ・提供する側（譲渡、売却などする場合）
  - 提供者自らが修理・改造した製品は提供しない。
  - 製品がリコール対象製品でないことを確認する。リコール対象製品だった場合は、提供を止め、事業者に連絡する。
  - 非純正バッテリー<sup>\*5</sup>を取り付けた製品である場合は、その旨を伝える。
  - 製品の製造年数を伝えるとともに、異常など不具合のあった製品は提供しない。

- ・入手する側（譲受け、購入などする場合）
  - 製品の修理や改造の履歴を確認した上で判断する。
  - 製品がリコール対象製品でないことを確認する。また、入手した製品がリコール対象製品だった場合は、使用せず事業者に連絡する。
  - 非純正バッテリーが製品に取り付けられているかどうかを確認し、取り付けられていた場合は、製品本体の事業者などのホームページで事故情報などの注意喚起が掲載されていないか確認する。
  - 製品の製造年数や製品に破損や変形などが生じていないか確認する。

- (※1) インターネット上で、フリーマーケットのように物品の売買を行えるスマートフォン用のアプリ。
- (※2) 本資料では、中古品販売店で購入したもの、インターネットオークション及びインターネット通販で購入した中古品、譲渡された物、中古住宅などに既設で設置されていたものなどを「中古品」と呼ぶ。
- (※3) 消費生活用製品安全法に基づき報告された重大製品事故に加え、事故情報収集制度により収集された非重大製品事故やヒヤリハット情報（被害なし）を含める。
- (※4) 重複、対象外情報を除いた事故発生件数。
- (※5) 非純正バッテリーとは、いわゆる互換品として販売されている他社製のバッテリー製品を指す。

## 1. 中古品の事故の発生状況

### 1.1 品目別 事故発生状況

2015年度から2019年度までの中古品の事故325件について、図1に「品目別 事故発生状況」を示します。家庭用電気製品の事故が、232件（71%）と最も多く発生しています。

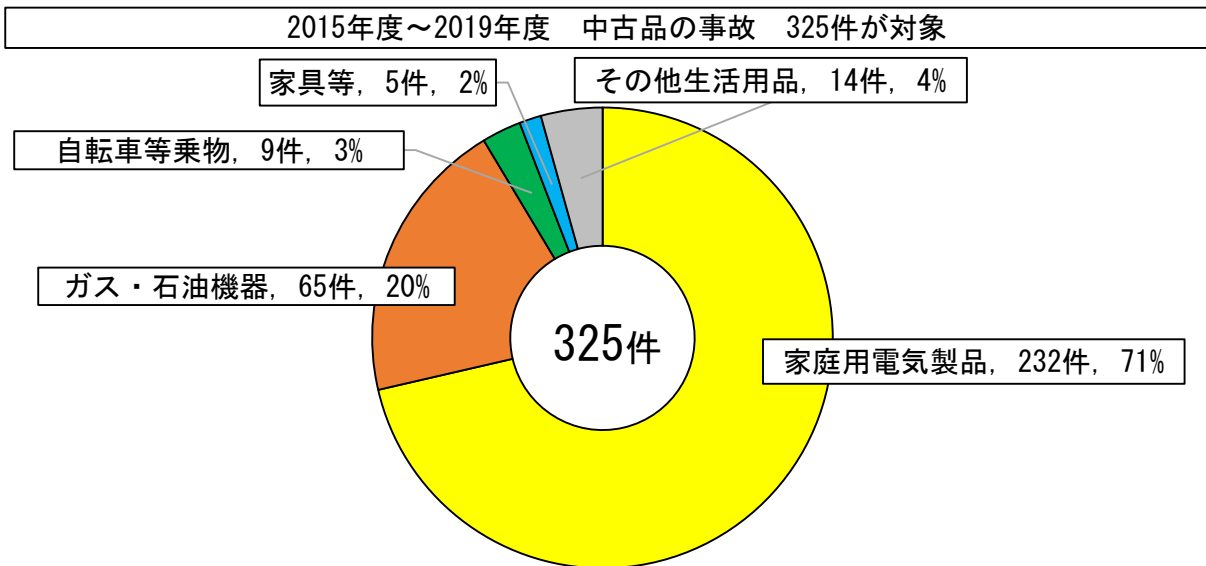


図1 品目別 事故発生状況

### 1.2 被害状況

2015年度から2019年度までの中古品の事故325件について、図2に「被害状況」を示します。人的被害は、死亡11件（12人）、重傷14件（14人）、軽傷23件（35人）発生しています。

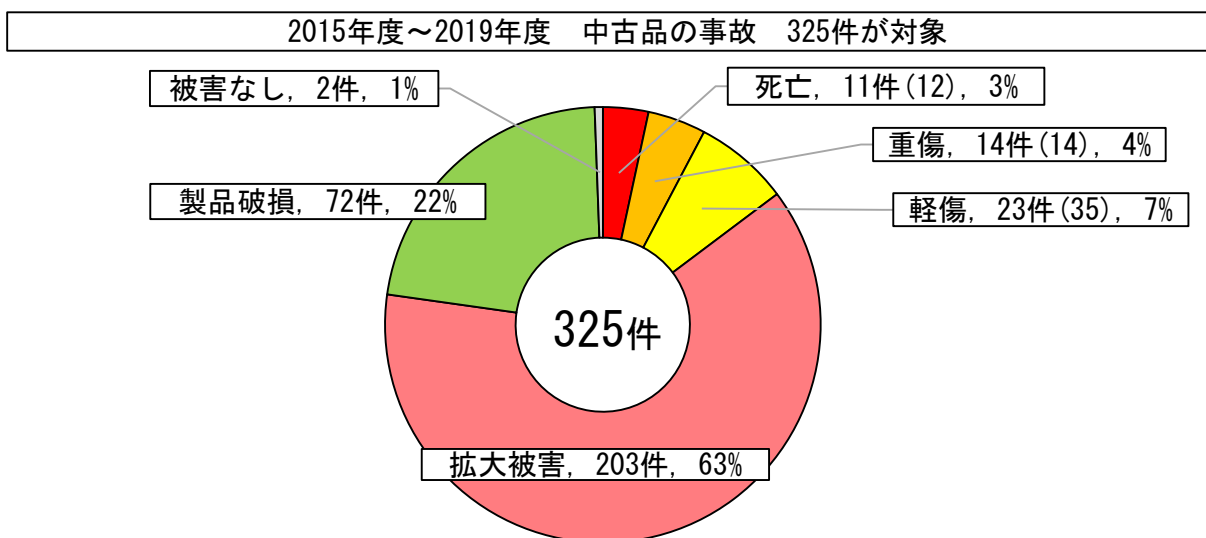


図2 被害状況

## 1.3 入手方法別 事故発生状況

2015年度から2019年度までの中古品の事故325件について、図3に「入手方法別 事故発生状況」を示します。譲渡された製品での事故が、138件（42%）と最も多く発生しています。一方、環境省の調査報告書<sup>※6</sup>によると自らが使わなくなった製品の売却・引渡しの際には、譲渡はリユースショップやインターネットでの売却より少なくなっています。

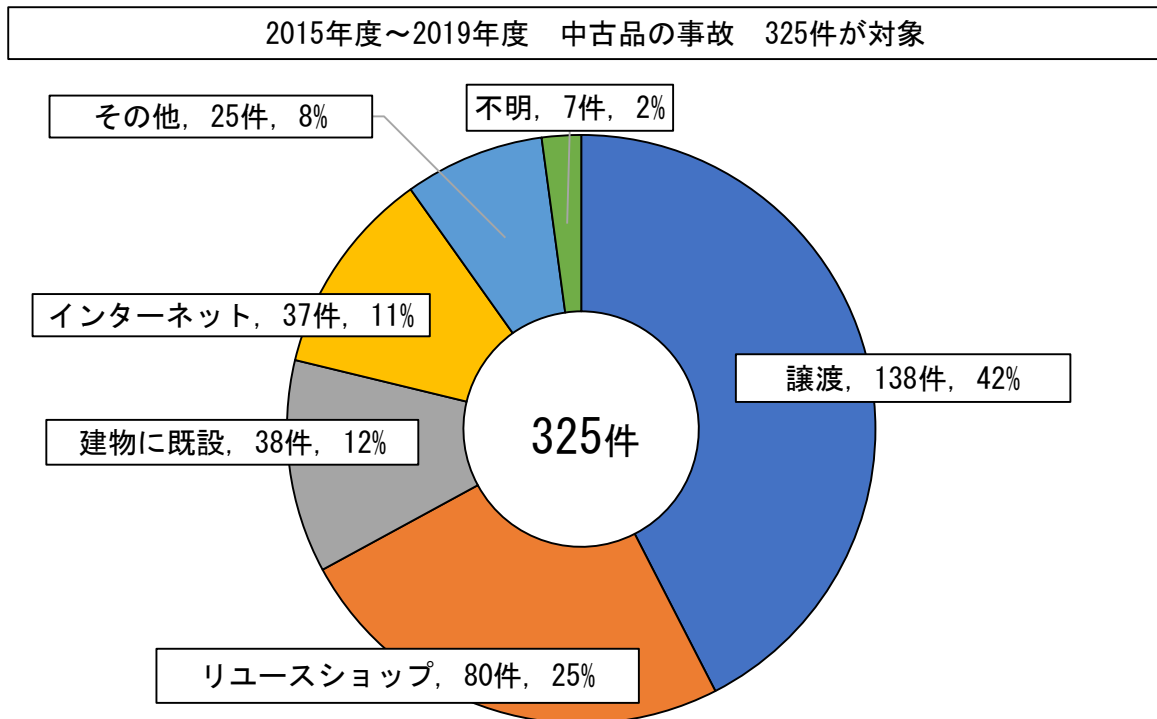


図3 入手方法別 事故発生状況<sup>※7</sup>

(※6) 環境省の平成30年度リユース市場規模調査報告書によると、「過去1年間における自らが使わなくなった製品の売却・引渡し」は、過去1年間で利用したことはない：66.4%、リユースショップ・中古品販売店：15.7%、フリマアプリ：7.5%、インターネットオークション：7.0%、家族・知人などへの譲渡・引渡し：5.4%となっている。

(※7) インターネットには、インターネットでの中古品の購入、インターネットオークション、フリマアプリなどを含む。

## 1.4 製品別の火災発生状況

2015年度から2019年度までの中古品の事故325件のうち、上位13製品について、図4に「製品別の火災発生状況」を示します。製品別では、パソコンが32件と、最も多く事故が発生しています。また、火災は全体で266件（82%）発生しています。

事故全体と比較すると、自転車による事故が少なく、火災が多くなっています<sup>※8</sup>。

（※8）件数などについては、別紙1を参照。

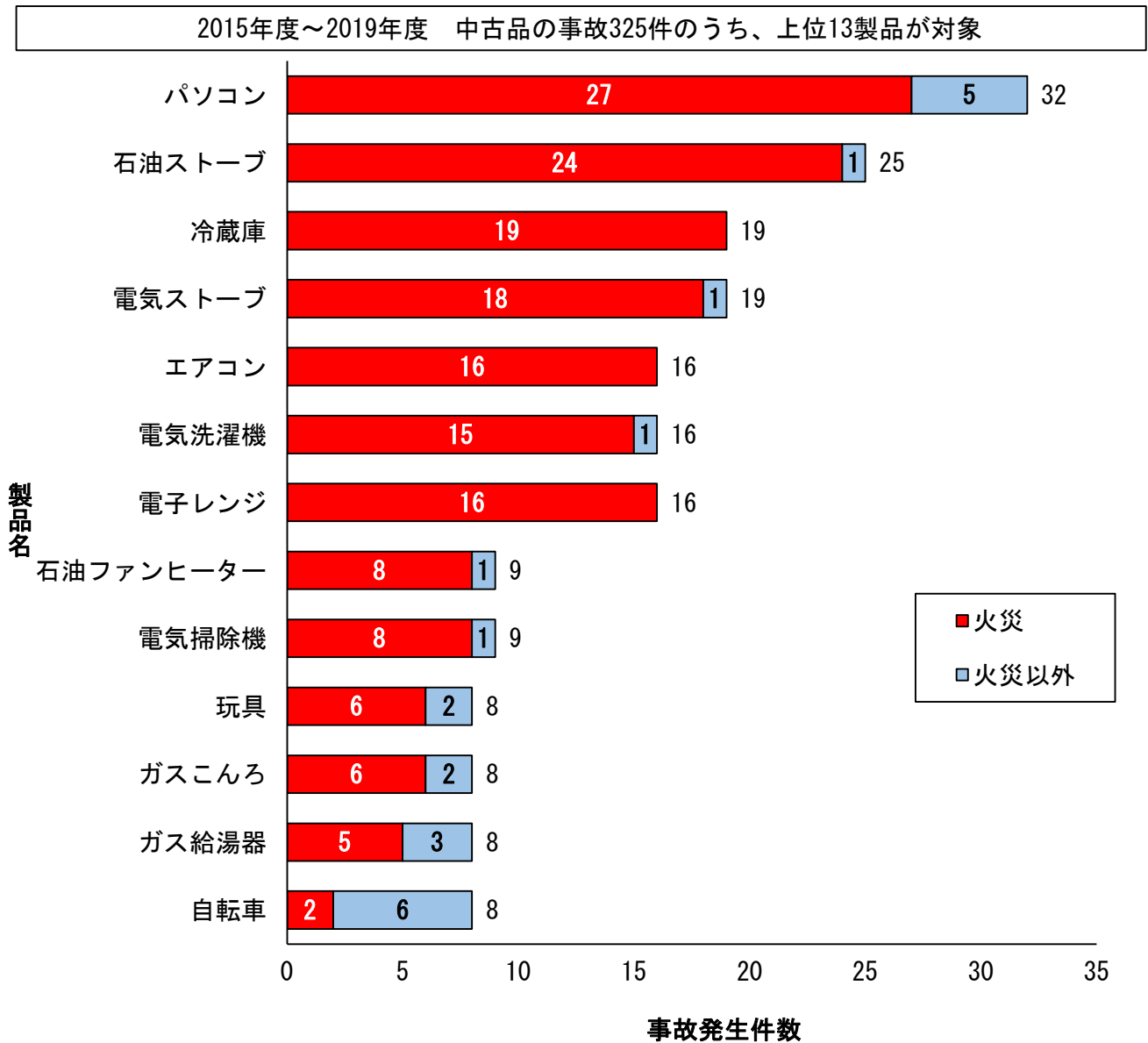


図4 製品別の火災発生状況

## 2. 事故事例

### 2.1 修理・改造された製品の事故

#### 2.1.1 改造された電気ストーブから発火

事故発生年月日 2017年4月（愛知県、年齢・性別不明、拡大被害）

##### 【事故の内容】

譲渡された電気ストーブ付近から出火し、周辺を焼損した。

##### 【事故の原因】

電源コードを途中で切断し、別のプラグ付コードをねじり接続したため、接続部で接触不良が生じて異常発熱し、焼損したものと考えられる。

なお、電源コードがねじり接続されていた経緯は特定できなかった。



### 中古品の気を付けるポイント①

#### ○製品の修理や改造の履歴に注意する。

提供者（使用者）自らが修理や改造した製品を中古品として譲渡したり売却したりしないでください。修理・改造された箇所やその際にできた損傷などが動作の異常を起こし、事故になるおそれがあります。修理・改造されたことが分かった場合は、入手しないでください。中古品を入手した後に分かった場合は、使用を中止してください。また、外見では確認しづらい製品内部などの箇所が改造されていたことによる事故も発生しております。中古品を使用していて、動作が不安定、異臭・異音がするなどの異常が認められた場合には、すぐに使用を中止してください。

また、製品を分解したり修理したりしないでください。修理が必要な場合は、事業者の相談窓口などに相談してください。



（写真）コードの改造

## 2.2 リコール対象製品の事故

### 2.2.1 リコール対象製品の電気洗濯機

事故発生年月日 2016年1月（埼玉県、年齢・性別不明、拡大被害）

#### 【事故の内容】

リユースショップで購入した電気洗濯機を使用中、本体及び周辺を焼損する火災が発生した。

#### 【事故の原因】

電気洗濯機のモーター用コンデンサーの製造時に異物が混入していたため、使用中に徐々に絶縁劣化を起こし、内部ショートが生じて出火に至ったものと考えられる。

なお、使用者は入手時にリコール対象製品だと認識していなかった。

### 2.2.2 リコール対象製品のノートパソコン

事故発生年月日 2017年5月（埼玉県、年齢不明・女性、拡大被害）

#### 【事故の内容】

インターネットオークションで購入したノートパソコンを使用中、ノートパソコンから火が出て、周辺を焼損した。

#### 【事故の原因】

リチウムイオンバッテリー製造時に異物が混入したため、電極間で内部ショートが生じて異常発熱し、発火して焼損したものと考えられる。

なお、使用者は入手時にリコール対象製品だと認識していなかった。

## 中古品の気を付けるポイント②

### ○製品がリコール対象製品か確認する。

中古品の事故のうち、リコール対象製品による事故が25件ありました。そのうち、リコール対象製品と知らずに入手し事故が発生したものは11件ありました。

特に、中古品の場合、購入時の所有者ではないため、リコール情報が届きにくくなるおそれがあります。

提供する側も入手する側もリコール対象製品でないことを確認してください。リコール対象製品と分かった場合は絶対に提供せず、製造事業者などに連絡してください。また、入手した製品がリコール対象製品だった場合は、使用せずに製造事業者などに連絡してください。

事業者、消費者庁、経済産業省及びNITEなどはホームページでリコール情報を掲載しています。お持ちの製品がリコール対象製品かどうかを確認することが可能です。

消費者庁のリコール情報サイトにおいて、最新のリコール情報や、キーワードによるリコール情報の検索を行うことができます。

また、「リコール情報メールサービス」に登録することでリコール情報が提供されます。



<https://www.recall.caa.go.jp/>



## 2.3 非純正品の事故

### 2.3.1 ノートパソコンの非純正バッテリーから発火

事故発生年月日 2018年5月（愛知県、20歳代・男性、拡大被害）

#### 【事故の内容】

インターネットで購入した中古品のノートパソコンを充電中、バッテリーパックから出火し、周辺を焼損した。

#### 【事故の原因】

非純正品のバッテリーパック内のセル6本のうち1本が内部ショートして異常発熱し、焼損したものと考えられる。



### 2.3.2 電気掃除機の非純正バッテリーから発火

事故発生年月日 2019年6月（京都府、40歳代・男性、拡大被害）

#### 【事故の内容】

インターネットオークションで購入した中古品の電気掃除機を充電中、電気掃除機付近から出火し、周辺を焼損した。

#### 【事故の原因】

非純正品のバッテリー内部でショートが生じて異常発熱し、焼損したものと考えられる。

### 中古品の気を付けるポイント③

#### ○非純正バッテリーが製品に取り付けられているかどうかを確認する。

非純正バッテリーを取り付けた製品を提供する場合は、その情報を伝えるようにしてください。リチウムイオンバッテリー搭載製品の事業者が採用する純正バッテリーは、製品本体及びバッテリー双方の制御機能で安全に動作するよう設計されています。一方で非純正バッテリーは制御機能が正常に働かないものもあり事故に至るおそれがあります。また、非純正バッテリーのなかには品質の悪いセルが使用された製品が確認されています。

事故が発生した非純正バッテリーの使用について、中止などの注意喚起を行っている事業者などもあります。入手した製品に非純正バッテリーが取り付けられていると分かった場合は、製品本体の事業者などのホームページを確認するなどして、事故が発生している製品でないことを確認してください。



電気掃除機用バッテリーパックの表示例（左：非純正バッテリー、右：純正バッテリー）



# nite

安全とあなたの未来を支えます



電動工具用バッテリーパックの表示例（左：非純正バッテリー、右：純正バッテリー）



ノートパソコン用非純正バッテリーパックの表示例  
(非純正バッテリーの場合、製品本体の事業者名の記載がありません。)

## 2.4 経年劣化による事故

### 2.4.1 扇風機の内部配線が劣化し発火

事故発生年月日 2016年7月（広島県、40歳代・男性、拡大被害）

#### 【事故の内容】

譲渡された扇風機付近から出火し、周辺を焼損した。

#### 【事故の原因】

長期使用（39年）により、首振り部分の内部配線に繰り返し屈曲ストレスが加わり、芯線が断線したため、スパークが生じて発火したものと考えられる。



### 2.4.2 電気炊飯器の接点が接触不良になり異常発熱

事故発生年月日 2018年1月（東京都、年齢・性別不明、製品破損）

#### 【事故の内容】

譲渡された電気炊飯器を使用中、本体を焼損する火災が発生した。

#### 【事故の原因】

長期使用（21年）により、コードリール内部の接点間で接触不良が生じて異常発熱したことで、周囲の樹脂が炭化、焼損したものと考えられる。

## 中古品の気を付けるポイント④

### ○古い製品や不具合のある製品に注意する。

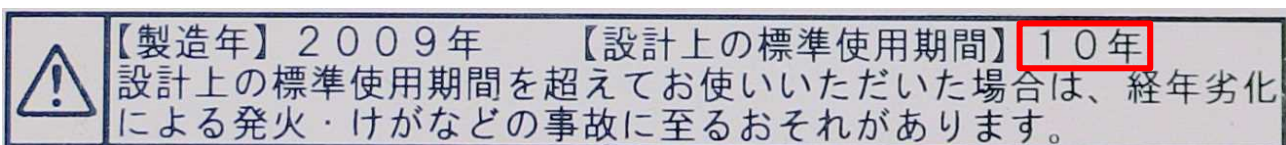
製造時から長期間経過した中古品は、外観に異常が無くても製品に不具合が生じているおそれがあります。特に、中古品の場合、入手前の使用方法や使用期間が分からない場合があるため注意が必要です。製品に破損や変形などの不具合が発生していないことを確認し、不具合が認められた中古品は使用しないでください。

特に製造から長期間経過した中古品は、内部部品が劣化している可能性がありますので入手前に製品の製造年をしっかりと確認しましょう。

### ○長期使用製品安全表示制度の表示を確認する。

平成21年4月以降に製造または輸入されたエアコン、扇風機、電気洗濯機（乾燥装置を有するものを除く）、換気扇、ブラウン管テレビの5品目の製品においては、「長期使用製品安全表示制度」が設けられており、「製造年」、「設計上の標準使用期間」が表示されています。対象製品の中古品を入手する際は、設計標準使用期間を超過していないかを確認してください。

設計標準使用期間を過ぎた製品については、使用時に異常がないか確認してください。



長期使用製品安全表示制度 表示イメージ

**○異常を感じたらすぐに使用を中止する。**

長期使用製品安全表示制度の対象製品以外においても、中古品の使用には十分に注意しましょう。中古品の使用時には異音や異臭などのわずかな異常も見逃さないでください。少しでも異常を感じたら使用を中止してください。

## 2.5 入手側による誤った設置・工事による事故

### 2.5.1 ガス給湯器の誤った接続でガスに引火

事故発生年月日 2017年10月（兵庫県、70歳代・男性、拡大被害）

#### 【事故の内容】

ガス給湯器のガス接続部付近から火が出て、ガスホースを焼損した。

#### 【事故の原因】

禁止されているゴム管口を使用者自らが再使用してガス機器との接続を行った際に、パッキンに異物が付着したまま取り付けたため、接続部からガスが漏れ、引火したものと考えられる。

なお、取扱説明書には「ガス接続工事はガス供給業者又は有資格者が行う。ゴム管口を使用しての接続は絶対にしない」旨、記載されている。



給湯器の接続部※

※一般社団法人日本ガス石油機器工業会ホームページより抜粋

[https://www.jgka.or.jp/gasusekivu\\_rivou/anzen/gasu\\_kogatavuwakashiki/index.html](https://www.jgka.or.jp/gasusekivu_rivou/anzen/gasu_kogatavuwakashiki/index.html)

### 2.5.2 エアコンの配線を途中接続し発火

事故発生年月日 2016年1月（大阪府、30歳代・男性、製品破損）

#### 【事故の内容】

使用中のエアコン室外機の内外連絡配線を焼損する火災が発生した。

#### 【事故の原因】

使用者の知人が移設した際に内外連絡線が途中接続（継ぎ足し）されたため、途中接続部で接触不良が生じて異常発熱し、出火したものと考えられる。



## 中古品の気を付けるポイント⑤

### ○ガス器具の設置はガス販売店か専門の工事業者に依頼する。

ガス器具の設置については法令などによってガス管の接続方法が定められています。誤った接続をしたり、ガスの種類に応じた専門の資格を持たない方が設置した場合には、ガス漏れなど思わぬ事故につながるおそれがあります。ガス器具を設置するにはガス販売店か専門の工事業者に設置を依頼してください。

### ○ガス器具の「ガス種」を必ず確認する。

ガス器具には、LPガス用と都市ガス用があります。ガスの種類が一致しないと不完全燃焼による一酸化炭素中毒になったり、異常燃焼で大きくなった炎でやけどを負ったり、機器が故障するおそれがあります。入手前に必ずガス種を確認し、使用しているガス種に合った器具を選んでください。

**○電気工事を伴う際には有資格者が作業を行う。**

エアコンなどの設置に電気工事を伴う際には、必ず電気工事の資格を持った方が作業を行ってください。設置の際に電源コードのねじり接続<sup>※9</sup>や室内機と室外機を接続する室内外ユニット間配線の途中接続などを行うと、接続不良によって、発煙・発火するおそれがあります。また、製品によっては、アース線の接続が必要です。湿気が多い場所や水気のある場所では、万一の故障や漏電の時に、感電のおそれがあるのを防ぐためアースは確実に取り付けてください。



(写真) ねじり接続

(※9) 接続器具などを使用せずに、電源コードの芯線をねじり合わせることで別のコードと芯線同士をつなぐ方法。

## 2.6 誤使用と気付かずに使用していたことによる事故

### 2.6.1 乳幼児用いすの腰ベルトの誤った取り付けによる事故

事故発生年月日 2019年1月（神奈川県、10歳未満・女性、死亡）

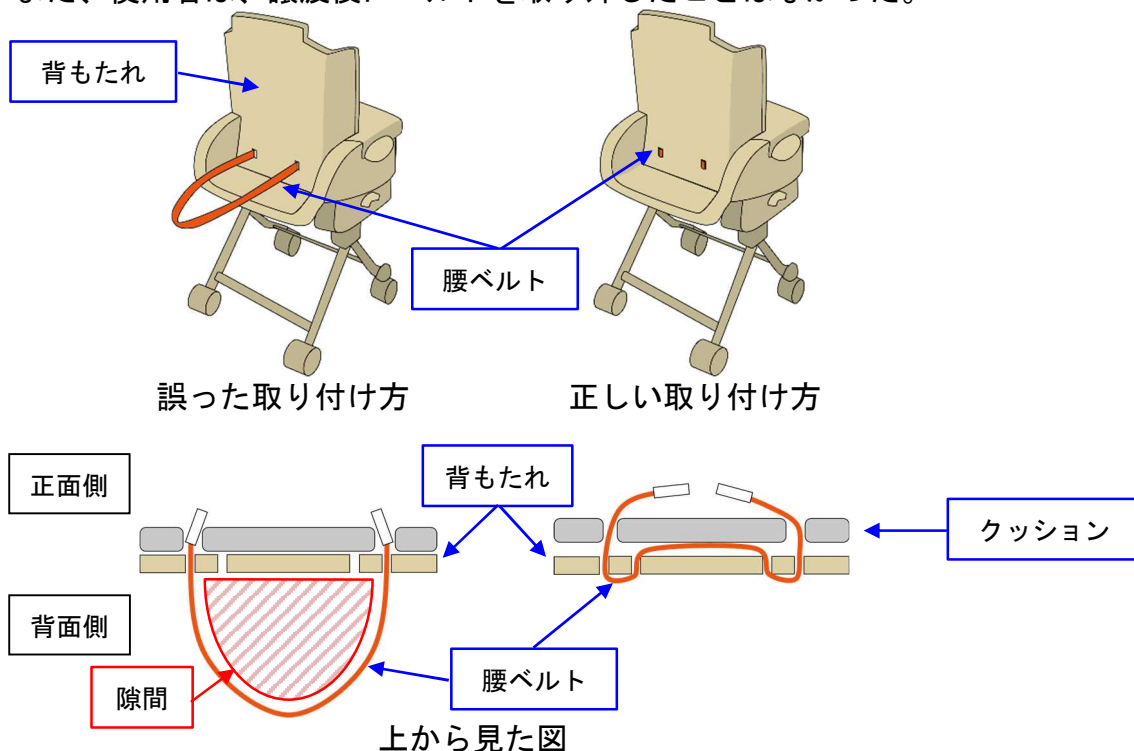
#### 【事故の内容】

譲渡された乳幼児用いすの腰ベルトに挟まった状態で幼児が発見され、病院に搬送後、死亡が確認された。

#### 【事故の原因】

背もたれに腰ベルトが正しく取り付けられていない状態で使用されていたため、ベルトが背もたれの背面側に露出してループ状になり、そのベルトの輪の中に頭を通した幼児の頸部がベルトによって圧迫され、事故に至ったものと考えられる。

また、使用者は、譲渡後にベルトを取り外したことはなかった。



### 中古品の気を付けるポイント⑥

#### ○取扱説明書を付属しているか確認する。ない場合は、入手して使用方法を確認する。

中古品を入手する際は、取扱説明書を同時に入手するなどし、使用方法をしっかりと確認してください。使用方法を正しく把握していないことで、思わぬ事故につながるおそれがあります。

取扱説明書を入手できなかった場合は、製品を扱っている事業者のホームページなどから取扱説明書や使用方法の情報を集め、正しい使い方を把握しましょう。不明な点があれば、事業者などに確認しましょう。

また、消費者自身が設置する製品では、別冊の取付設置説明書等が付属している場合があります。取扱説明書に「取付設置説明書別添付」などと書いてある機器は、取付設置説明書も入手しましょう。



安全とあなたの未来を支えます

## お問い合わせ先

独立行政法人製品評価技術基盤機構 製品安全センター 所長 小田 泰由  
担当者 柿原、佐藤、小寺

Mail : [ps@nite.go.jp](mailto:ps@nite.go.jp)

Tel : 06-6612-2066

## 参考データ

2015年度から2019年度までの中古品の事故325件のうち、年代が判明した192件について、図1に「年代別 事故発生状況」を示します。40歳代が43件（22%）と事故が最も多く発生しています。

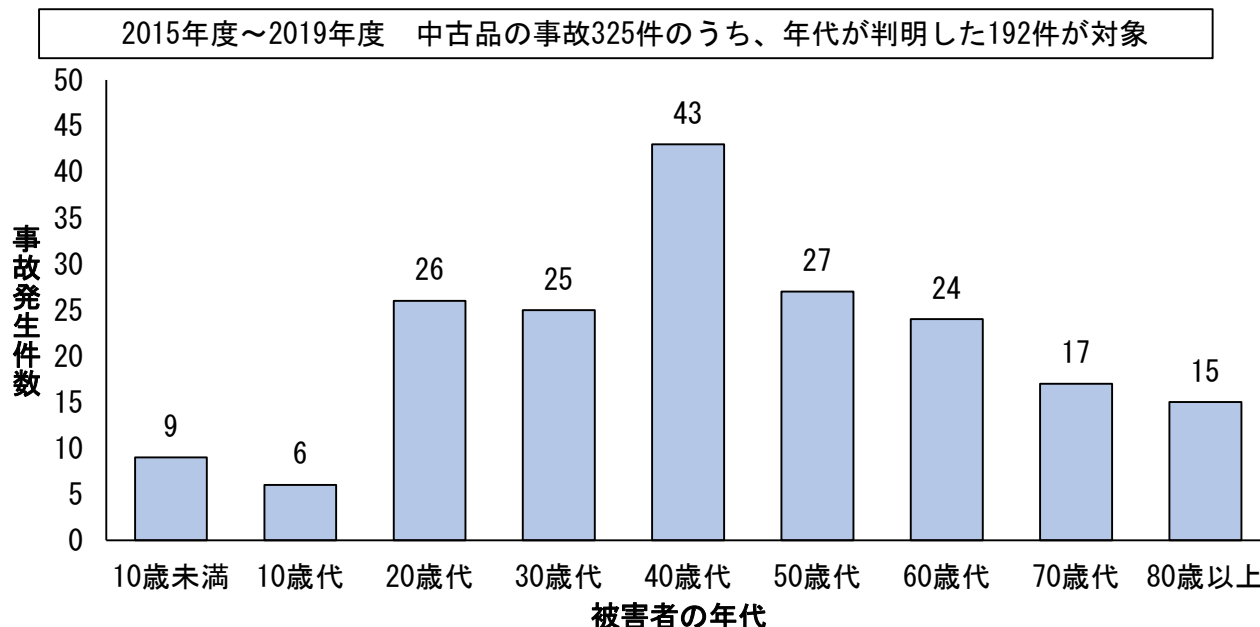


図1 年代別 事故発生状況

図2に「過去1年間における自らが使わなくなった製品の売却・引渡し」を示します。リユースショップが43%、インターネットオークションが29%、譲渡が11%となっています。

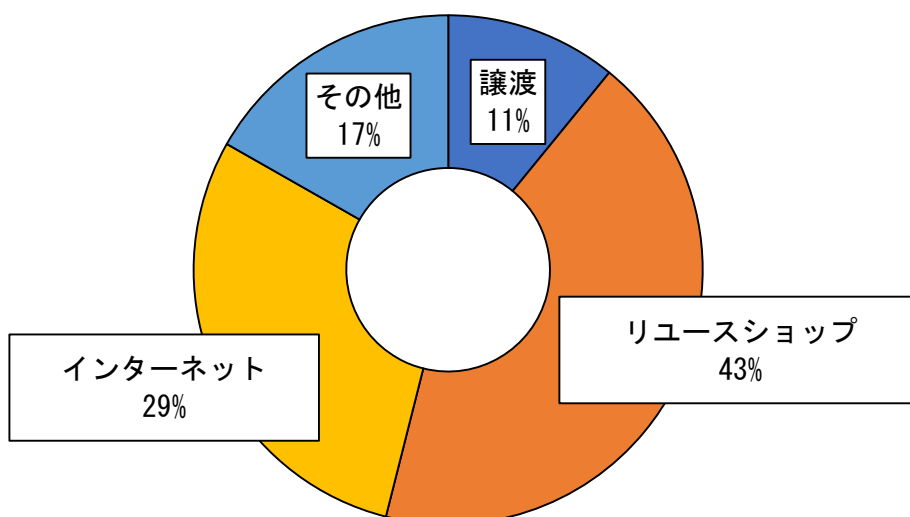


図2 過去1年間における自らが使わなくなった製品の売却・引渡し

※環境省「平成30年度リユース市場規模調査報告書」の情報を基に、過去1年間で利用したことはないを除きNITEが作成。（過去1年間で利用したことはない：66.4%、リユースショップ・中古品販売店：15.7%、フリマアプリ：7.5%、インターネットオークション：7.0%、家族・知人などへの譲渡・引渡し：5.4%となっている。）

（図表 93 過去1年間における自らが使わなくなった製品の売却・引渡し

：[https://www.env.go.jp/recycle/H30\\_reuse\\_research\\_report\\_1.pdf](https://www.env.go.jp/recycle/H30_reuse_research_report_1.pdf)）



2015年度から2019年度までの中古品の事故325件について、図3に「火災の発生状況」を示します。同期間の製品事故情報9423件について、図4に「火災の発生状況」を示します。

2015年度～2019年度 中古品の事故 325件が対象

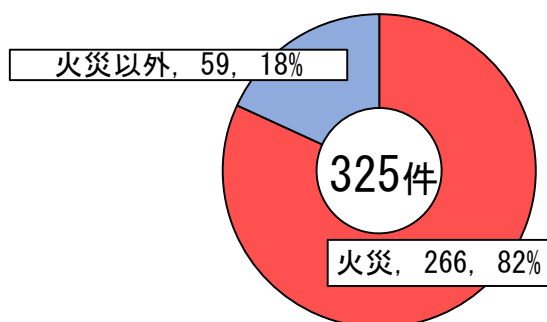


図3 火災の発生状況

2015年度～2019年度 製品事故 9423件が対象

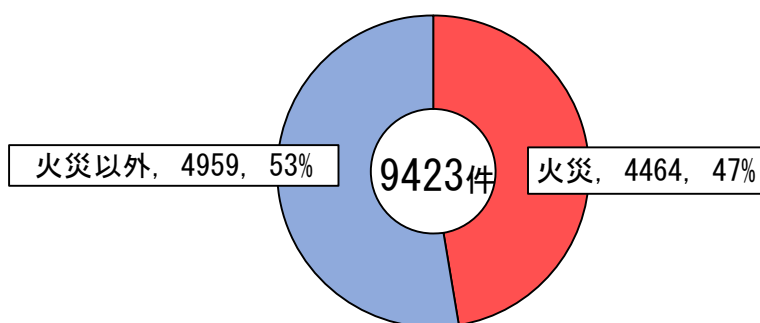


図4 火災の発生状況

2015年度から2019年度までの中古品の事故325件及び製品事故情報9423件のうち、上位10製品について、表1に「製品別 事故発生状況」を示します。

表1 製品別 事故発生状況（左：中古品の事故、右：製品事故情報全体）

順位	製品名	件数	順位	製品名	件数
1	パソコン	32	1	パソコン	1073
2	石油ストーブ	25	2	自転車	542
3	電気ストーブ	19	3	照明器具	391
3	冷蔵庫	19	4	エアコン	348
5	電子レンジ	16	5	配線器具	307
5	電気洗濯機	16	6	ガスこんろ	286
5	エアコン	16	7	電気ストーブ	264
8	電気掃除機	9	8	直流電源装置	243
8	石油ファンヒーター	9	9	石油ストーブ	227
10	自転車	8	10	充電器	213
10	ガス給湯器	8			
10	ガスこんろ	8			
10	玩具	8			